

虚子記念文学館投句特選句・令和八年二月

稲畑廣太郎 選

オリオンの一縷のなみだ薄氷 兵庫 中村恵美

外つ国へ八雲伝へし雪女 埼玉 小田毬藻

盆梅を盆梅らしくしたる苔 兵庫 玉手のり子

恋猫の何を基準の好き嫌ひ 三重 池本準一

薄氷ゆふべの風の走り書き 兵庫 小柴智子

早春の日差しや芦屋川ほとり 新潟 安原 葉

鳥曇コンテナ船の帰港する 兵庫 岩永静代

灯の洩るる仮設工房薄氷 兵庫 武田奈々

駆け抜けて風花の中シュート打つ 兵庫 藤丸慎士

(青少年)

せいざして書きぞめをするはじめてだ 鳥取 岡崎玲奈

(青少年)

入選句・令和八年一月

灯に浮かぶ雪ひらひとつ湯にきえて	神奈川	昂	縁側に孫と手遊び春兆す	奈良	堀田ますみ
炭の火のちちと欄間の暮れゆけり	大阪	押見げげげ	吾畑に魁のあをいぬふぐり	奈良	堀田建夫
手土産の鯛焼甘く過疎の昼	大阪	深森佳鶴	蒼天の光に鼓動春立つ日	三重	中島庸子
盆梅の鉢はみだしている気魄	京都	前悦子	白魚の影なき影を見定めて	大阪	若林友子
水神の統べし那智滝凍りけり	京都	西村やすし	犬ふぐり小さき命を弾ませて	大阪	ふじもと言果
盆梅を大地に下ろす師のこころ	大阪	須知香代子	正客の日向ぼこりや別の顔	兵庫	高野さち
伝統も革新も句や碧梧桐忌	大阪	河辺さち子	木の実植う全校生徒十五人	兵庫	上岡あきら
探梅や降りるはひとり秘境駅	大阪	深森明鶴	木の実植う森は地球の宝物	兵庫	伊東伸子
またボクへ跳ねた消しゴム猫の恋	富山	三河三可	あこがれの彼の人居れば冬ぬくし	兵庫	加古直子
鶴帰る天にアンセム響きつつ	大阪	富永武司	いぬふぐり何とも云へぬ愛のあり	大阪	藤本公子
盆梅の正面といふ角度あり	大阪	多田羅紀子	寒明の部屋に華なぞ飾りたき	三重	前出公子
冴返る風に憂ひのありにけり	三重	松村咲子	雛飾る老舗の茶房仄暗く	三重	前出美千子
スキー靴秘めたる恋の思ひ出も	大阪	山田佳音	トンネルの分つ湖北の残る雪	大阪	北上美佐子
本堂の脇に深々竜の玉	香川	藤田敦雄	早春の庭の一隅句やかに	兵庫	黒田千賀子
梅東風や春日大社の丹色濃し	大阪	奥野千草	無情とは悲しき言葉薄氷	兵庫	宮本露子
中庭に光の刺繍梅ふふむ	大阪	森重深鶴	自画像のゴッホの耳や冴返る	大阪	杉山千恵子
満身に春を先取したるかな	大阪	林曜子	丹頂の風を起こして飛び立ちぬ	兵庫	吉村玲子
鳥影の池面をよぎり水温む	奈良	山口廣世	薄氷を割る音に明く僧の作務	香川	葛原由起
色変へぬ芦屋の松や春立ちぬ	兵庫	谷本逸歩	故里の雪の重さといふ生活	大阪	河村久美子
早春の風の青春匂ひくる	愛知	中野ひろみ	柄杓星零るるしづく薄氷に	兵庫	涌羅由美
抜衣紋に風の尖りて浅き春	兵庫	藤丸千香子	さみどりはしあはせ色の露のたう	兵庫	武田優子
早春の枯色の蔓浮き上がる	兵庫	川村ひろみ	残雪や小言の行き場なかりけり	兵庫	山田翔太
寒暖差これも二月の試練かな	兵庫	森岡喜恵子	部屋寒しあおざめてゐる室の花	徳島	多田まさ子
虚子館の俳磚暈す春時雨	石川	白根寿子	海に降る山に降る雪芦屋かな	香川	三宅久美子
	石川	白根寿子	芦屋来て会ふ美しき春の雪	石川	辰巳葉流

揺るぎなき川のせせらぎ冴返る	兵庫	河野ひろみ	ゆくりなく落ちし押し花菜の花忌	大阪	棕本望生
物影の紡ぐモノクロ春の雪	岡山	石井宏幸	蟬しがみつく「戦争をするな」と鳴く千葉	兵庫	鹿野川小舟
童心にうかれ薄氷ことごとく	大阪	西尾浩子	寒明や稚を抱きて小買物	兵庫	永沢達明
互返る港神戸のルミナリエ	兵庫	奥田好子	赤といふ色の洪水雛飾る	兵庫	藤井啓子
白梅の蕊磨きゆく風の音	兵庫	足立朱麻	澄み渡るしよしゆんの空の碧きこと	兵庫	深尾真理子
淡雪を掴む足跡消えて行く	京都	夜寺耕太	吹き抜けの窓一杯に春の月	奈良	豚々舎休庵
二二月てふ言の葉美しや汀子の忌	愛知	小野 薫	凍蝶の美しき命を惜しみたる	兵庫	岩水ひとみ
ちぎり絵の波の余白に胡蝶来る	東京	清水ぼっぱ	検診着の着心地やはし桜草	三重	瀬川琴女
金かかると母の嫌味よ合格す	愛知	海神瑠珂	老松の太き根元に春時雨	兵庫	高市敦之
祈りゆく熊野古道に冬日射す	奈良	堀ノ内和夫	あけくれの庭紅梅の香の満ちて	兵庫	二瓶美奈子
早朝の二月の細長き鏡	千葉	志村 肇	紅梅に笑顔豊かな俳が	兵庫	田中節夫
梅が香や謙虚とふ字に虚子のゐて	兵庫	杉浦萌芽	おしゃれして出掛けませうか猫の恋兵庫	兵庫	平尾孝子
鍬持てば初音ひと声ありにけり	茨城	杉山 満	眼鏡にもポタージュの湯気春寒し	兵庫	槌橋眞美
春になり生きるものみな深呼吸	埼玉	吉田春代	太鼓打つ女は紅春の宵	兵庫	福田光博
小魚をくはへ出掛くる猫の恋	兵庫	高橋純子	風の中霧氷チリチリ生まれけり	兵庫	松本 敬
あめ玉を一つほぼる春の風邪	鳥取	井上登志枝	できちやつた婚春荒の回覧板	兵庫	風待ラテ
汀子師のやうな雛様と逢へる館	福岡	柴田慧美子	公園のホールインワン桜の芽	兵庫	春の新々
白梅の自づから生む翳りかな	香川	湯川 雅	初大師ペコちゃん人形売られをり	東京	木村三球
雨樋の慣れぬ雪解の水零す	兵庫	吉田知子	早春や一木一草みな勇む	兵庫	岩水ひとみ
来る毎に見し白梅の咲き初めし	兵庫	辻田あづき	名残雪ビルも疎らな地方都市	滋賀	近江堇花
流行の波に乗りたる春の風邪	京都	山崎貴子	料亭に盆梅の香の満ちにけり	愛媛	星月彩也華
春の霜昨夜の静寂をとちこめし	大阪	田邊育子	じんわりとおでこの火照る春満月	兵庫	天下明太郎
早春の海を覆つてゐる光	岡山	伴 明子	蒼天に薄紅色の梅暦	神奈川	小林 心
頂点の選挙の涙春立ちぬ	大阪	谷本房子	丑三つに妻恋ふる猫あはれなる	兵庫	矢車星風
色といふ色を秘めたる牡丹の芽	鳥取	棕 則子	五輪ロス春一番が吹き飛ばし	兵庫	伊集院秀樹

春寒しペリリユー島に待つ遺骨	和歌山	中島紀生
冴返る沖の彼方の二等星	東京	宮村土々
春雨と並んで歩く松林	京都	山路花
足裏に主の声を聴く踏絵かな	兵庫	惠島祥一朗
川縁の小さいさき黄色春来たり	兵庫	惠島京子
新調の小鉢洗ふや風光る	神奈川	金子三奈乃
二月尽甘々と焼くパンの耳	岡山	沼野大統領
梅ふふむ謫居や黒き屋根瓦	兵庫	キートスばんじょうし
解体の瓦礫の庭に紅椿	兵庫	太平楽太郎
春浅しまだ力不足の日差	石川	辰巳昌彦
二桁の香りが生まれ沈丁花	静岡	いたまき芯
神の国へと紅梅の香のつづく	神奈川	進藤剛至